

『おとめ在月での啓発活動～2012～』

1. 目的

ファッションとスイーツのイベント「おとめ在月」には約 5,000 人が来場する。特に若い女性が多く来場される。そこで子宮頸がん予防啓発活動を行い、正しい知識の普及と検診受診促進を目指す。また、りびえーる記事掲載により継続的な啓発を行う。

2. 主催

山陰中央新報社

3. 日時

2012年11月17日(土) 11:30～20:00

4. 場所

松江イングリッシュガーデン

5. 参加人数

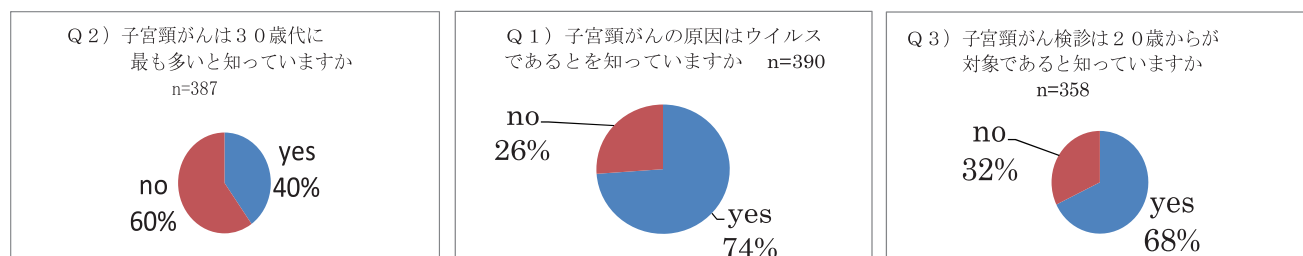
学生：15名、実行委員：4名

6. 内容

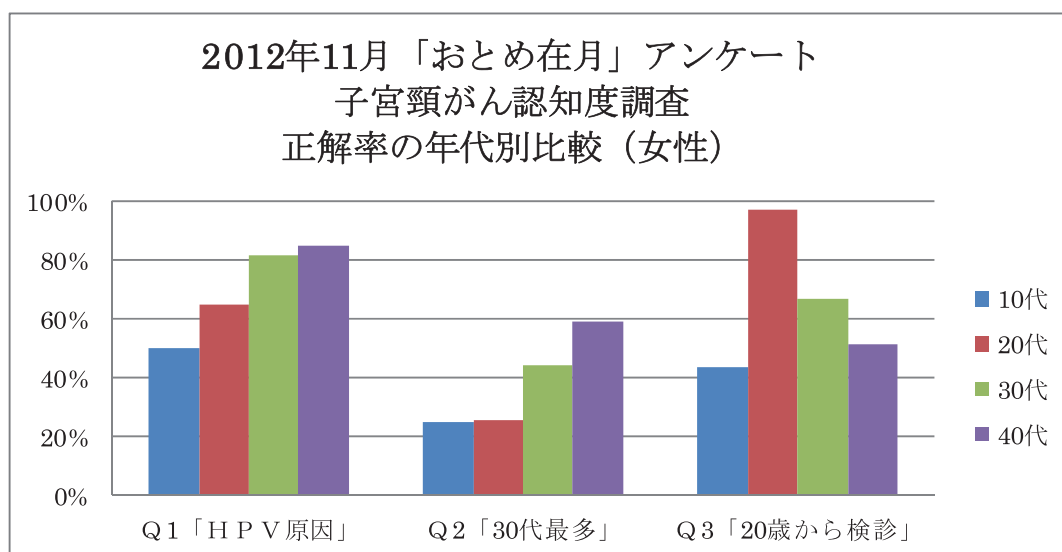
ボードアンケート協力者：約 390 名

《結果》

1) ー1 全体の結果



2) ー2 女性の正解率 年代別





(会場の様子とボードアンケート)

7.まとめ

- 子宮頸がんの原因はウイルスであることを知っているのは各年代とも 50%以上であった。近年 CM や性教育などで耳にする機会が増え多くの人に知られてきているのが原因であると考えられる。
- 10 歳代は 50%と年代比で最も低い数値を示した。ワクチン接種年代であり子宮頸がんの正しい知識、予防の正しい知識など今後も性教育を進めなければならない。私たち同年代からの啓発も効果的と考える。
- 「30 代に最も多い」という認知度が全体的に低い。発症年齢を知っておくことで 20 代が未然に防ぐという気持ちが起こり、検診受診率が向上するのではないか。
- 「20 歳からが検診の対象」だと知っている方は多かった。しかし、「検診に行ったことがありますか？」と訪ねると「行ったことがない」または、行ったことがあっても継続されていない場合がほとんどであった。予防できるということを強調して検診に行こうと思わせる啓発が必要だと感じた。
- 「知っているでも検診受診しない」20 歳代の女性が受診するにはどうしたら良いか考える必要がある。
- 以前は「子宮頸がん」自体をよく知らなかったし、何となく他人事のように感じていた。しかし事前研修等を通じて「女性なら誰でもかかりうる病気である」こと、そして「年 1 回の検診が重要である」ことが分かった。活動中、子宮頸がんについて自分の言葉で説明を行うことが難しかった。今回の活動で得た知識を自分の中だけで留めておくのではなく、友人や家族にも伝えていけたらと考えている。
- 今回は島根大学からの学生も増えてよかった。出雲組も松江組に分かりやすく教えてくれていたので、松江組も活動に入りやすかった。みんなが熱心に活動していてよかった。
- 今回の啓発は立ち止って話を聞いていただくのが難しい中の啓発だった。何を一番伝えたいのか明確にしていると短時間ではあいまいな事しか伝わらないと思った。意識調査だけでなく、ブースでの説明の啓発に力をいれてもいいと思った。興味がない方へどのように啓発していくかは今後の課題になると感じた。

【2013 年度】

『がん啓発に関する子宮頸がん学習会～2013～』

1. 目 的
「子宮頸がん」に関する基礎的な知識や最近の動向を理解する。
2. 日 時
2013 年 5 月 26 日(日) 13:30～17:00
3. 場 所
島根県立大学出雲キャンパス 205 会議室
4. 参 加 者
学生 24 名、実行委員 9 名
5. 内 容
 1. いなたひめプロジェクト代表あいさつ 自己紹介
 - ・ いなたひめプロジェクト代表、森脇紫央里さんあいさつ、各自自己紹介
 2. 小海先生による子宮頸がんに関するレクチャー
子宮頸がんの受診率の日本・島根県の動向、子宮頸がんの基礎知識、ワクチンについて、検診について、いなたひめプロジェクトで目指すことなどを中心にお話していただいた。
 3. 河野先生による子宮頸がんに関するレクチャー
子宮頸がんの基礎知識、子宮頸がんの予防・早期発見について、HPV ワクチンやワクチンの副反応について中心にお話していただいた。学生からワクチンの効果、副反応について質問があった。ワクチンの効果は9年間保障、その後は改めて考えていく必要があると回答いただいた。副反応は、迷走神経反射によるものがほとんどで、痛み刺激によって起こる。したがって副反応は他の注射と大差はないとのことだった。
 4. 学生による活動計画案、子宮頸がんについての絵本案、山陰 H&B フェスタのチラシ案
 - 1) てんしんはん・いなたひめ PJ 活動計画について
 - ・ てんしんはん・いなたひめ PJ 活動計画について説明。
 - ・ これまでのイベントでの啓発活動での難しさから、少人数で対象を「お母さん世代」に絞って啓発活動を行っていきたい。
 - ・ 乳がんは「お母さん世代」、子宮頸がんは同世代の若い人が対象となるため、「お母さん世代」と一まとめにできないのではないかと。
 - ・ 出雲市の場合、保健師さんや子育て支援センターなどが主に関わっておられる。子どもとの接点をさがしていく必要がある。例えば、公民館単位、乳幼児健診など。
 - ・ 託児はどうするか。
 - ・ 市の担当の方といっしょに進めていく必要がある。
 - ・ 土日や夕方などでも可能か、確認して進めていく。
 - 2) 子宮頸がんについての絵本案
 - ・ 学生が作成した絵本を実演した。
 - ・ ストーリー性があってもよい。
 - ・ 「子宮頸がんはどこにできるの」→どこにあるのかももう少し詳しい方がよい。
 - ・ 対象がお母さんなら理解されているのではないかと。
 - ・ 2～3人でも、多数でもできるように使い分けるとよいのでは。
 - ・ パワーポイントのメリットもあるのではないかと。
 - ・ 対象はお母さんだけなのか、子どもも一緒なのか。

3) 山陰H&B フェスタのチラシ案

- ・ 山陰H&B フェスタのチラシ案の発表、説明
- ・ チラシ配布とボードアンケートを実施予定。
- ・ ティッシュ（フローチャート）、いなたひめPJチラシ、子宮頸がんチラシを配布。
- ・ ボードアンケートに参加した人にボールペンを配布する。検診を受けたかどうかを追加してはどうか。角を保護するなど、小さい子どもにも配慮が必要。

4) 実行委員メンバーからのコメント

- ・ 患者さんと呼んでの勉強会やリボンムーブメント（女子大生啓発活動）との交流、学校へいっしょに行って活動するなどの活動も可能なのではないか。活動の方向性を知りたい。
- ・ 国の動向として子宮頸がんの併用検診のあり方を検討されている。乳がん遺伝子検査は先々では県内でも導入されるかもしれない。受ける前と陽性ではどうするか、医療者としてどうするか考えていく必要がある。
- ・ 啓発活動をする中で、心が折れそうになることもあるかもしれないが、誇りを持って進めてほしい。
- ・ 性教育の一環でクイズなどを通して学習する機会もある。いっしょに学校現場で活動できる機会があればよいと思う。



(講師：小海先生による講義)



(講師：河野先生による講義)



(作成した絵本発表の様子)



(学習会の様子)

『山陰 H&B フェスタでの啓発活動～2013～』

1. 目的

通年開催される「美と健康」に関心のある来場者（約 22,000 人）に対して子宮頸がんの正しい知識の普及状況を調査するとともに啓発活動を行う。

2. 日時

2013年6月8日(土) 10:00～17:00

2013年6月9日(日) 10:00～16:00

3. 場所

松江くにびきメッセ

4. 参加人数

8日(土): 学生18名、実行委員1名

9日(日): 学生18名、実行委員1名

5. 来場者数

2日間延べ22,000人

6. 内容

1. ボードアンケート

- ・子宮頸がんに関する○×クイズ形式の質問を来場者に質問した。
- ・子宮がん検診の経験の有無を合わせて質問した。
- ・今回よりホワイトボード2台を使用した（前年度まではダンボールを使用）。
3人1組でブース前や会場内を回った。
- ・ボードアンケートに答えてもらった方に、リーフレットとボールペンを配布した。
- ・幅広い年齢層の方にボードアンケートに答えていただいた。

2. ブースでの対応

- ・リーフレットを拡大しボードにしたものを使用して説明した。リーフレットも渡した。
- ・ブースでもボードアンケートと同じ形式で質問して記録した。アンケートに答えた方には、ボールペンも配布した。
- ・20～30歳代の方、親子連れの方も多かった印象。

3. その他

- ・昼休憩を利用して、乳がん検診車、子宮検診車を見学し説明を受けた（6月9日参加者）。
- ・空き時間などを利用して、チラシ（県が準備されたもの）を配布した。合わせてボードアンケートやブースへの呼び込みをした。
- ・リーフレットを2000枚準備していただいた。ティッシュ、受診機関のチラシと合わせて配布したが、2日目午後には不足みだったためセーブして配布した。不足分は県のチラシ、河野先生のリーフレットを配布した。
- ・ボールペン800本準備して、2日目午後（14時ごろ）には配布終了した。

20～30代の子宮頸がんが増えているんです



(ボードアンケートの様子)



パートナーといっしょに
すてきですね

(リーフレット説明の様子)



熱心に聴いていただき、
ありがとうございました。
めざせ素敵女子!

7.まとめ

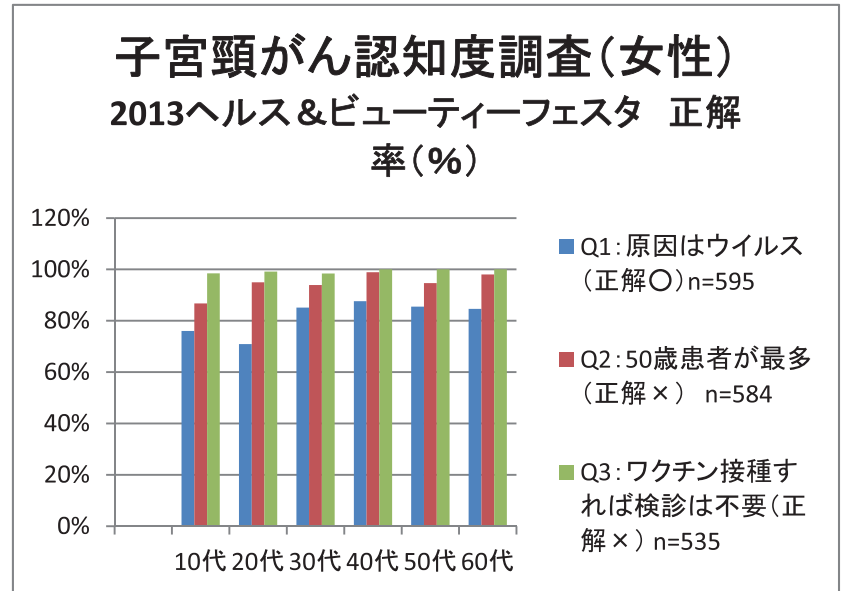
初めて参加した島根大学の学生は、少し緊張していたが他のメンバーのサポートで少しずつ話しかけることが出来るようになった。

交替で検診車の見学をしたり、実際に検診を体験したメンバーもあり、啓発活動だけでなく自分自身の検診体験につながる有意義な2日間となった。

【イベントチラシ】



【アンケート結果】



【いなたひめ手作りリーフレット】

表

「検診」と「ワクチン」で「予防できる」子宮頸がん

＜子宮頸がんって？＞

- 最近では **20代～30代**の女性に増えている。
 - *2011年島根県で子宮頸がん診断された人数…117人 →このうち**7割は20代～40代女性**です。
 - *20代～30代の女性が発症するすべてのがんの中で**第1位**です。
- 子宮頸がんは **HPV(ヒトパピローマウイルス)**の感染が原因。
 - *一度でも性行為の経験のある女性なら、その回数・期間・人数に関係なく誰でも感染の可能性があります。
- 初期症状はほとんどなく、**症状が出る頃にはがんが進行していることが多い。**

性交経験のある人の約80%の人が感染するといわれています。

＜メカニズム＞

子宮の入り口(子宮頸部)にがんができる

この段階では自覚症状がほぼなく、いつの間にかがんは進行…だから**早期発見のために検診が必要**です!!

このうち約10% → HPVに感染した細胞

このうち約10% → 細胞が変化

このうち約10~30% → がん細胞

この段階で治療すれば、がんにはなりません!

女性のほとんどがウイルスを自然に排除しています。

島根県立大学看護学部「がんを考える学生の会：てんしんはん」
島根県子宮頸がん啓発キャンペーン いなたひめプロジェクト

裏

＜20歳になったら検診に行こう！＞

ショッピングモールとかにも来るよ!

Q どこで受けるの?
A 産婦人科のある**病院**または**検診車**で。

Q どのくらいお金がかかるの?
A 基本的には **1,000円～2,000円**程度。

無料クーポンが配られている自治体もあるよ!

Q 時間はどのくらいかかるの?
A 検診自体は**5分**くらい。(施設によって待ち時間は異なります)

検診車だと、受付から終了まで**15分**くらいだったよ!

Q 結果はいつわかるの?
A **2週間**後くらいに郵送で送られてくるよ!

Q どんな検査をするの?
A [内診]… 内診台に上がり、子宮の入り口(子宮頸部)の状態を目で見えて観察する。(必要に応じて精密検査で子宮頸部の状態を詳しく確認することもある)

[細胞診]… やわらかいヘラやブラシのようなものを膣に入れて、子宮の入り口(子宮頸部)の粘膜を軽くなでるように採取する。

検診を受けた学生の感想
先生の顔が見えないから恥ずかしい、少し違和感があったけど痛くなかったよ!

＜10代でワクチンを打とう！＞

- ワクチンは10代から接種できる。
- 半年以内に3回接種する。
- ワクチンで約70%予防できる。
- 接種には1回約1万5千円、3回の接種で5万円くらいかかります。
※H25年4月から主に中学1年生を対象に無料で接種が行われるようになりました。

ワクチンで完全に予防できない…だから**検診も大切!**

施設や市町村によって異なります。詳しくは、各施設・市町村役場にお問い合わせください。

『いなたひめプロジェクト ～子宮頸がん学習会、交流会～』

1. 目的

子宮頸がんやHPV ワクチンに関する基礎的な知識や最新情報を理解する。知識を深めるとともに、今後の啓発活動に役立てる。

2. 日時

2013年10月22日(火) 18:30～21:00

3. 場所

島根県立大学出雲キャンパス 217 講義室、4号館2階

4. 参加者

学生43名(島根県立大学生28名)、実行委員11名

5. 内容

1) 講演

【講師】 MSD 株式会社

『子宮頸がん予防の重要性について』

- ・HPV ワクチンの定期接種の安全性について厚労省が調査、研究を行っている。
- ・定期接種を中止するほどのリスクが高いとは評価されなかった。
- ・しかし、因果関係が否定できず、長く痛みが続くこと、副反応の頻度も明らかになっていない。そのため、説明できる段階までワクチンの積極的な接種を推奨しない、という方針になった。

2) いなたひめプロジェクト 活動報告および今後の活動について意見交換会

- ・森脇紫央里さん発表

3) お食事会

- ・大人も含めて4～5人1テーブルにて、お弁当を食べながら交流した。

6. 感想

啓発はもちろん、自分の体を守っていく上でも学びとなりました。得られた情報を発信していきたいです。ここで学んだことを身の回りの大切な人に伝えたいと本当に思いました。もっと啓発活動をしていきたいと意欲的になれました。今後の啓発に生かしていける知識を身につけられたと同時に、やはり啓発をしていかないといけないと思いました。専門家の方と情報を共有することで、他の活動状況なども知ることができるよい機会になりました。ワクチンの最新データを知って、安心しました。子宮頸がんを予防するため、20歳になったら必ず検診に行こうと思います。一方的にせず、もっと知りたい、検診に行かなくてはと思えるような啓発をしなければならないと思いました。子宮頸がんワクチンについて、現在の情報から今後につなげていきたいです。子宮頸がんと出産の高年齢化の関係について考える機会になりました。正しい情報と方法で、啓発を行ってきたいと思いました。ワクチン接種で心配があったので、疑問を解消でき、いい勉強になりました。



(学習会の様子①)



(学習会の様子②)

7. まとめ

- ・啓発活動で知識不足を感じる事が多く、今回教わったことを身につけて、今後の啓発活動に生かすことが今の課題だと思った。
 - ・子宮頸がんの最新情報を詳しく聞くことができてよかった。
 - ・特にワクチンについて詳しく聞くことができてよかった。自分の知識として見につけていこうと思う。
 - ・子宮頸がんワクチンについて様々な問題が指摘されているが、正しい情報と方法で啓発を行っていきたいと思う。
 - ・子宮頸がんのワクチンを受けているので、自分の身に振りかかかるとして心配なこともあったので、疑問点を解消するためにも、いい勉強会になりました。解明されていないことも多いので、結局分からないことも多かった。
 - ・出産の高年齢化についてどのように対応していくか考えることができた。より効果がある範囲までワクチン接種をしていくことが望まれる。
 - ・啓発はもちろん、自分の身体を守っていく上でもとてもよい学びとなった。情報発信していきたい。
 - ・啓発する際一方的にならず、もっと知りたい、検診に行かなくてはと思えるような啓発をしなければいけないと思った。
 - ・子宮頸がんワクチンは世の中で騒がれていて、「怖いな」という印象だった。検診は、20歳になったら必ず行こうと思います。
 - ・分かりやすく説明していただいた。
 - ・松江や他県での活動状況なども知ることができる、よい機会だった。
 - ・学んだことを身の回りの大切な人に伝えたいと本当に思いました。啓発活動に意欲的になれた。
 - ・啓発に生かしていける知識を身に付けられたと同時に、やはり啓発をしていかないといけないなと思った。
-
- ・水曜の午後などに開催されると、関心がなかった学生も興味を抱くと思う。
 - ・手元に資料があるとさらによいと思った。
 - ・資料があれば再び勉強するときに、もっと理解が深まるのではないかと感じた。

よつがね 『四絡子育てサークルでの啓発活動』

1. 目的

お母さん世代＝20～30歳代に、近年子宮頸がんの罹患が増加しているため、

- 1) 子育て中の『お母さん世代』の方に、子宮頸がんの早期発見・予防について理解していただく
- 2) 『お母さん世代』の方に、子宮頸がん検診を定期的に受けていただく、きっかけの機会をつくる

2. 日時

2014年3月3日(月) 10:00～12:00

3. 場所

出雲市四絡コミュニティーセンター

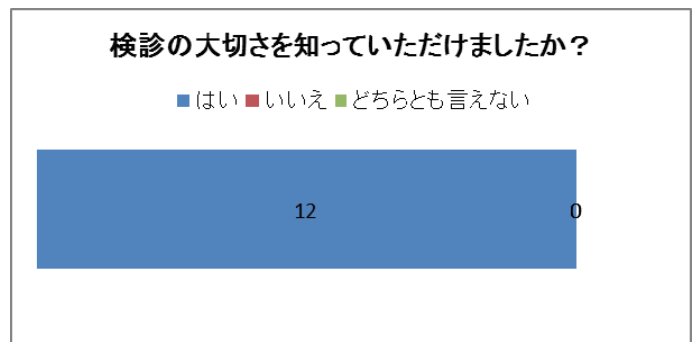
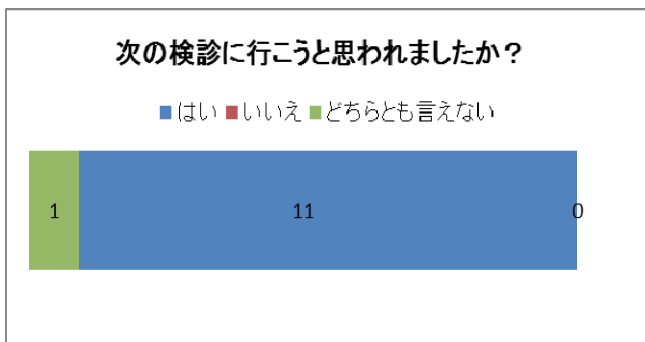
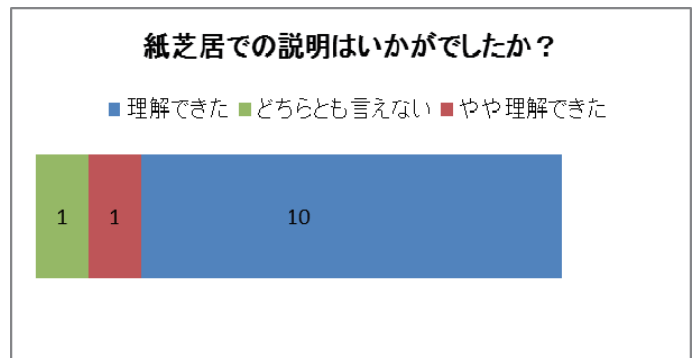
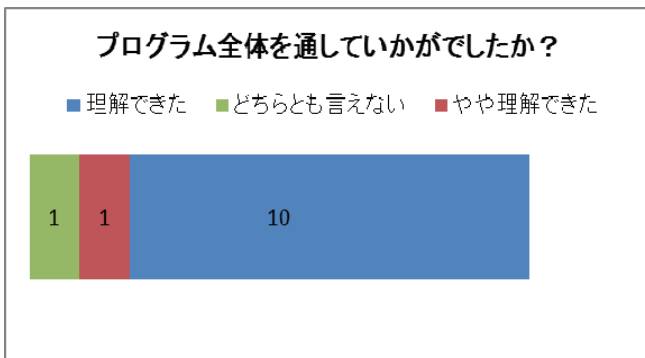
4. 参加者

学生5名、実行委員1名

5. 内容

- 1) てんしんはんサークル、いなたひめプロジェクトの説明
- 2) 子宮頸がんに関する紙芝居（子宮頸がんとはどんながんなのか・予防方法はどんなものがあるかなど）の説明
- 3) 紙芝居の内容をもとに、確認のためのクイズ（○×クイズ3問程度）
- 4) アンケート
 - ・アンケート用紙に記入していただく（記述ではなく、○で囲んでいただく形式）
 - ・アンケート内容
 - ①紙芝居は伝わりやすかったか
 - ②検診に行くきっかけ作りになったか
 - ③全体を通しての感想
 - ・アンケートの目的：今回初めて紙芝居での啓発を行うため、今後の啓発方法として適切か検討するため。検診のきっかけ作りとなったか確認するため

■ アンケート結果(12名:20代4名、30代7名、40代1名)



- ・毎日忙しい子育ての中で自分のことにまでなかなか手が回らないが、このように教えてもらっても良い機会であった。
- ・先日検診を受けたばかりなので、その内容がよく分かった。
- ・検診の大切さは知っていたが、子宮頸がんがウイルス感染によって引き起こされるものとは知らなかったのので聞いてよかった。

〈意見〉

- ・産後は自分の病院、用事は後回しになってしまったが、後悔しないように健康なうちに定期的に必ず検診を受けようと思う。
- ・20代後半から気になり検診は行っているが、今日詳しい説明を聞いて改めて分かった。
- ・ウイルスが原因だということが分かり勉強になった。
- ・感染経路についての詳しい説明がほしかった。
- ・検診の結果にも3通りあることを初めて知った。結果によって3年後か1ヶ月違うと分かり、もう一度検診結果を見てみようと思った。大変為になった。
- ・ワクチンのことについて知りたい。

7. 今後の改善点

- ・感染経路についての詳しい説明がほしいと意見があったので、紙芝居や説明の中に取り入れていく。
- ・紙芝居を強度のあるものにする。
- ・紙芝居をして大事なポイントを図にする。
- ・質疑応答の時間があるとよい。
- ・紙芝居を読むのではなく、場合によっては覚える。
- ・今まで使用していた配付資料の中に、対象の方がほしい情報（次の検診のめやすなど）が記載されていないため、配付資料の修正が必要。
- ・検診のクーポンや検診車の情報を適切に提供できるようにアンテナを高く持つことが必要。

8. 考 察

紙芝居だったので、子供も見てくれてお母さんもきちんと紙芝居を見ることができた環境が作れた。

保健師さんによって改めて説明してもらうことによって知識の定着につながった。お母さんが求めている情報を知ることが出来たので今後の啓発で重点的に情報提供する内容を確認できた。

今回の啓発の目的であった、検診に行ってもらおう動機付けが、実際に次に自分が検診に行くのはいつか確認する時間をつくることで出来た。



(紙芝居の様子①)



(紙芝居の様子②)